

第 3 回少人数教育推進検討委員会（10月11日）の概要

1 報告事項

第 2 回少人数教育推進検討委員会の概要について報告。

2 各議題における主な意見

(1) 小 3 以降の少人数教育の方向性

- ・ 小学校 3 年生以降については、国の基準を上回る基準で少人数教育を推進していくことが望ましい。

(2) 小学校 3 年生及び 4 年生の少人数教育の推進について

- ・ 3 年生にも引き続き 25 人学級の導入が望ましい。
- ・ 3 年生ではある程度の集団規模が必要なことから 30 人学級とし、学年進行により集団規模を大きくすることが考えられる。
- ・ 25 人規模、30 人規模のそれぞれの教育的効果が考えられる中、教員増のための財源、教員及び質の確保、施設面などを考慮しつつ総合的に判断すべきではないか。
- ・ 3 年生から 4 年生にクラス替えをしていない学校が多く、3 年生と 4 年生の学級規模は同じとすることが望ましい。
- ・ 人間関係を広げる観点から 1 年ごとのクラス替えも考えられる。 など

(3) 小学校 5、6 年生以降の少人数教育の推進について

- ・ 小学校 5 年生、6 年生の時期に担う役割や心身の発達、中学校への円滑な接続の観点から、ある程度の集団規模が必要ではないか。 など

(4) アクティブクラスについて

- ・ アクティブクラスの制度は、学校の弾力的な運用を可能とするものであり、現行の制度を存続させることが望ましい。
- ・ アクティブクラスにおいて配置される教員は、現状、午前中の勤務に限られており、午後は教員の負担が増えている。午後の勤務を可能にすることにより、午後の児童へのきめ細かな対応と担任の負担軽減を図るべきである。
- ・ 午後の勤務を可能とする場合には、1 日勤務する常勤 1 名や、半日ずつ勤務する非常勤 2 名の配置など、多様な働き方が可能となる配置の工夫が望ましい。 など